

支部長挨拶

地域に必要とされる支部づくりを目指して



慶佐次 操
(Kesaji Misao)

支部長に就任するにあたって

沖縄を代表する建築家で、人望の厚い国場幸房氏の後を受け、この度JIA沖縄支部長を引き受けさせて頂くことになりました。

これまで国場支部長は、多様な交流を通して、多くの方々にJIA沖縄支部の存在と、建築の素晴らしさを広くアピールしてきました。そしてわれわれ会員には、氏のこれまでの建築作品を通して色々なエピソード・時代背景・経験・技術論等を教えて頂きました。そのような幅広い行動力と寛容な国場支部長の後を受け、浅学非才な私に何ができるのか、自問自答する不安と、責任の重さをかんじるものでした。幸いメンバーには多士済々な方々がおられます、会員、賛助会員のお力もお借りしながら、良い建築、良い地域環境を創り、そして建築家の業務環境の改善に向けた活動を行い、地域社会に必要とされる支部づくりに努めてまいります。

建築家の社会的信頼の回復

昨今の建築に係る社会的事件以来、設計者への信頼が失われつつ、加えて建築設計を取り巻く業務環境も年々厳しくなってゆきます。そのような状況下にあっても、建築家は発注者の要望に応え、より良い建築を創らねばなりません。そして、各々の建築が重なり合って一つの街並みが形成されてゆくという責任をも同時に課せられます。その責任を全うするが故にも、建築家の業務環境の改善が求められます。県内の他建築3団体との協調も図りながら、建築家の業務環境の改善に繋がる活動に積極的に取り組み、設計者の社会的信頼の回復に努めます。

次世代育成活動と幅広い会員拡大

沖縄支部では建築家志望の学生や、若い建築家（J+A）に対して育成活動をおこないます。毎年行われる卒業設計選奨も今年で11回目と定着化し、建築を志す学生達の励みになっています。又、J+Aの自主研修の支援を通して、若い方々と会員との交流を行ない、共に自己研鑽の場としています。一方、建築設計者でJIA活動に協調頂ける方々へ幅広く会員拡大を図り、建築家の地位向上に向けた活動と共に展開し、そして次世代へと繋ぐ組織構成にしてゆきたいと考えます。

支部設立10周年記念事業

沖縄支部も今年で10周年を迎えます。これまで徐々に組織が出来つつある中、JIA大会2002沖縄の開催、「F・L・ライト」上映会、「公共建築の日」共催等、地域に根ざした支部活動を通して、地元の諸関係機関の理解ご協力のもと、お陰様で幾つかの事業をなし得ることが出来ました。今年10周年の節目であることから、沖縄の建築文化に貢献する事業を計画・実行し、今後とも地域社会に必要とされる支部づくりに努めてゆきます。どうぞ皆様の協力ご支援を宜しくお願い申し上げます。

任をおえるにあたり



国場 幸房
(Kokuba Yukifusa)

支部長任期の後半は、姉歯構造偽装問題、超低額入札事件、建築家の倫理について、JIA理事会の大半の時間と、議論を費やしてきました。この期に出てきた建築基準法の改正の時に、建築家協会等、建築関係五団体が国に対して提出した要望の内容が殆んど取り上げてもらっていないようあります。私は、の中でも、適正な単価によって算出したはずの設計料で予算が決まっているはずなのに、底のない金額での競争入札を行う事が、諸々の悪い問題を起こす起因になっていると思います。設計競争入札を廃止する事を今まで国に要望をして来たが、長年に渡ってまだ受け入れられず、まだまだその先も見えません。この入札問題で起こる諸々の社会問題を、少しでも少なくする為の“応急処置”として、入札による最低価格の比率を早急に決めるべきだと思います。それ以下の金額で仕事をさせる事は、罪であり、犯罪であると思う社会認識を全ての人々が早く持つべきです。これまで、極端に言えば、法で定められている最低時給価格の手取料も払えないような超低金額で落札している事件が全国に多々あり、それに対してその

度ごとに、JIA理事会の内部で大きく問題に取り上げられ、議論に費やす時間の多いのは残念であります、時と場合によっては、JIAの仲間同士に傷をつけかねません。およそ、とても公正とは思えない超低落札金額に対し、国の公正取引委員会とはなにをさしているのでしょうか、解りません。幸いに、既に“応急処置”として、最低落札金額の比率を決めて実行している地方自治体があると聴き安心しました。早く全国にひろめたいものです。最低金額の比率を決めることで出るはずの問題は、まだまだ罪が軽いものだと思います。そのような問題は、臨機応変に皆で智恵を出して、少しずつ良くしていったらいいと思います。

沖縄県内で出版されている住宅関連新聞や、雑誌に毎回、素晴らしい、力のある住宅作品が数多く掲載されています。その中の記事を読みますと、施主の殆どのは、それらの新聞情報や、実際の建物を見て廻り、設計者を決め、互いに信頼、協力し合って適正な予算で、満足のいく建物が出来ているようです。そのような現象は建築家が仕事する上での励みになり、又、建築設計を学んでいる若い人たちにも夢を与えることが出来るはずです。そして、それは建築文化をより充実させる要因にもなるものと信じています。

沖縄支部長の任を受けて改めて考えると、思っていた以上に、日本建築家協会沖縄支部の存在が、沖縄の一般の人々に知られていないのに気づきました。その会の存在を多くの人々に知ってもらう事が先決だと思い、私の出来そうな事として、私の趣味を生かしての行動にててみました。沖縄支部事務所の“浪漫さ”なる空間を利用して、囲碁大会、音楽会、酒飲み会等、幾度か続けてきましたが、現在は失速の状態にあります。今後も少しでも何らかの行動を続けて、会の存在を多くの人に知ってもらい、その会の意義を社会的に認知してもらう努力は必要だと思いますので、皆で検討して下さい。

本部の理事会に参加してみると、私は年齢的に数少ない最年長組に入り、殆ど40、50代の理事の方々が活発な意見と議論を長時間にわたって交わしています。沖縄支部もその様に若い世代に頑張ってもらいたいものです。沖縄支部の会員の年齢構成を調べると40代以下が極端に少なくなっているので、其の世代を増やす努力をして、明るい、元気の有る支部に育てて貰いたいのです。その足掛かりに成るかと思い、若い慶佐次操氏を次期支部長に推薦して、多くの会員の快い了解を得て彼に引き受けました。彼は、これまでの沖縄支部の、内部の仕事、内情に多く精通しており、又情熱とファイトがあり、優れた作品を数多く創っているので私も安心です。会員皆で協力し、支えて沖縄支部をより元気な独自性のある会に育ててほしいのです。私の二期四年の任期も会員、賛助会員の優しさに甘え、多くの協力を得てどうにか任を終わることが出来ました。永いようで、いつの間にか四年が過ぎ、人生とはこの様にして、いつの間にか歳を重ねるのだな、と思ったりもしました。支部長の役割は私の最も不得意な仕事だけに、任を成したのかと思うが、これまでの皆さんの協力、御支援にはほんとに感謝しています。これからは一員として、出来る限りの私の得意とする事は惜しまないで協力し参加したいと思っています。有難う御座いました。

平成19年4月27日

■ 観察参加メンバー 16 人

山城東雄
福田俊次
大浜文雄
島田潤
外間勉
慶佐次操
仲本典充
真玉橋朝明
野原勉
與儀清三
嘉数芳則
久高多美子
當間卓
竹下紀彦
上原政宏
垣花武彦



JIA 沖縄支部では、2 年に一度海外観察旅行が行われている。

今回は 4 月 11 日～15 日の 4 泊 5 日の日程でベトナム社会主義共和国を観察した。訪れたのは北部にある首都ハノイ、世界遺産の古都フエ、中部最大の都市ダナン、かつての海上交易の中継地ホイアン。中国（1000 年間）、フランス（80 年間）の支配、1975 年に 30 年にも及ぶベトナム戦争の終結を経て、現在は、市場経済の導入により近代化されつつある街並みが急激な経済の発展を物語っている。また、文学や絵画にも自由な気風を感じられるベトナムの現在を報告する。

ベトナムの人口は 8,300 万人。首都はハノイは 300 万人を占める。亜熱帯気候に属するハノイは、10℃～33℃と沖縄によく似た気候だ。到着した日は、肌寒い程でメンバーのほとんどがジャケット着用であった。郊外は田園風景が地平線まで広がり、農業国であることが分かるが、一端市内に入ると人・車・バイクの大洪水で暗黒の交通ルールがあるらしい。

市内中心部を流れるフォン川（紅河）を核に、いたるところに湖・沼が点在し市民の憩いの場となっている。建物は殆どが低層で原色に近い鮮やかな色どりの街並みである。

近年の建物は RC 造のラーメン構造に、外壁を通気口のあるレンガを積みモルタルで仕上げたものだが、地震がないというところで柱・梁もかなりきやしゃである。



ハノイ住宅地の街並

人・車・バイクがゴチャゴチャの市街

最近のモダンな住宅



ホーチミン廟



フォン



ベトナムビール

ベトナムを代表する料理フォン。米を原材料とした麺料理である。スープは豚骨というがかなりあっさりしていて美味しい。市民がにぎやか食堂であったが、日本人の口に合った味付けである。ベトナムビールは 4～5 種類あるそうだが、写真は代表的なもの。

フエは 1945 年まで続いたベトナム最後の王朝グエン朝の古都。ガイドは「日本で言う京都」と言っていた。グエン朝王宮を中心に碁盤状に整備された都市計画もその由縁である。

フエの北が北緯 17 度線と呼ばれたベトナム戦争時の非武装地帯（南北境界）である。よって、フエは激戦区で王宮の殆どの建造物も戦火にさらされたようだ。

フォン川の遊覧船に乗ると水上生活者的一群が現れる。

平均的なサラリーマンの月給が 2.0～2.5 万円というから更に貧しい生活をしていると言う。川魚を売って生計を立てているかと思ひきや、川底の土砂を採取して建設資材として売買しているとのこと。



フォン川遊覧船



水上生活者



グエン朝王宮



2007.4.13



2007.4.13



2007.4.13



宮廷衣装（アオザイ）をまとった観察メンバー。古都フエの夜を宮廷料理とともに満喫した。

中央の黄金のアオザイが皇帝（山城氏）と皇后（久高氏）



2007.4.14

2007.4.14

日本、中国、インド、イスラム世界を結ぶ東西交易の中継地として栄えた古都ホイアン。16～17世紀に日本人街がつくれられた。ノスタルジックな歴史ある街並みは世界遺産に登録されている。街中は徒歩で散策できる程の小さな町であるが、路地の両側には雑貨ショップやカフェが軒を連ね、ほどよいスケール感をもった魅力的な佇まいである。建物の間口に対して税金が課せられるということで、うなぎの寝床のような細長い建物が多い。建物の路地側が店舗、中に中庭、奥が生活空間となっていて、まるで京都の町家を彷彿させる。

税金の関係で建物の間口は狭くうなぎの寝床のようである。路地側は店舗として商売を行い、中間部には中庭がある。中庭は建物奥の生活空間と店舗とを結ぶ中間領域であり、猛暑のベトナムでは不可欠な通風・採光を確保するためのものである。

ちなみに、ベトナムの一般家庭には、クーラー、冷蔵庫はないとのこと。



路地側ファサード



中庭の中庭



中庭にある井戸

執筆者：前畠浩人・比嘉智邦

今年度、J+A(ジュア)の活動は6年目を迎えます。昨年度は、建築家の方々からの繋がりや紹介でいろいろな活動ができた年でした。

まず4月には、沖縄にゲルがあるという情報から「ゲルを建てよう！」という企画に参加しました。ゲルはモンゴル遊牧民の移動式住居で、部材は軽く、少なく、エコロジカルでした。参加者には女性や子供もまじって、2時間半かけて建てることができました。

建てたのは、「地球の日（アースデイ）」。エコロジーという点で地球にやさしく、まったく異なる文化に触れることで地球を想うよい機会になりました。

引き続き6月には、「モンゴルで考えられる建築を自分達も考えてみよう！」ということに発展し、小学校を増築するアイデアコンペのワークショップを行いました。

始めに、スライドを通してモンゴルの現状を踏まえてから、それぞれがいろんな視点のアイデアを発表し、講評し合いました。

土地の条件が違えば、建築も変わる。そんな当たり前のこと実感できるよい機会になりました。

5月には、JO disegno studio の皆さんと琉大の学生さんとJ+Aで、スライドや発表をし、建築に関わる意見交換や懇親会を持ちました。

まず、琉大3年次4名の方がそれぞれ、集合住宅を計画する上でのコンセプトを発表し、その後での参加者からの質問や意見に、それぞれがヒントを掴んだようでした。

J+Aからは、モンゴルの移動式住居ゲルについてと、大学在籍時の卒論の発表で、質疑応答によりデジタル・デザインの新たな方向性が示唆されました。

世代を超え、会を超えて交流会を持てたことは大きな意味があったと思います。

8月には、名護市街地にある津嘉山酒造所を見学しました。「木造」の酒造所として沖縄で最古の建物（昭和2年築造）で、昨年の11月に国の登録有形文化財にもなっていて、戦禍を免れ、戦後は米軍によるパン工場としても使われていた時期があったそうです。生家として育った瑞慶村さんに御案内頂き、建物だけでなく泡盛のできる行程も学ぶことができました。

現在この建物では、地元の人がイベントをしたり、私達が訪ねた時にも、手作り照明展が開催されていて、この見学会も含め地域の活性化になっている様子でした。

10月には、JIA(日本建築家協会)25年賞やDOCOMOMO・100選にも選ばれた「聖クララ教会」の修道院へ1泊しました。

17人の参加者とシスター達も参加されての「教会で教会建築を学ぶ」と題して「ラ・トゥーレット修道院」、「ロンシャン教会」のDVD、スライド会および懇親会を持ちました。

次の日は朝6時からのミサにも参加し、その後はシスターの案内で教会及び修道院の見学をしました。建物外観からは計ることのできないスケールの大きさと計画に驚きました。

宿泊室内は木の温かみがあり、心地よく、ぐっすり眠りました。

最後なりましたが、J+Aの活動に対し御協力と温かく見守って下さっているJIAや建築家の皆様に感謝すると共に、今後の御指導の程宜しくお願い致します。



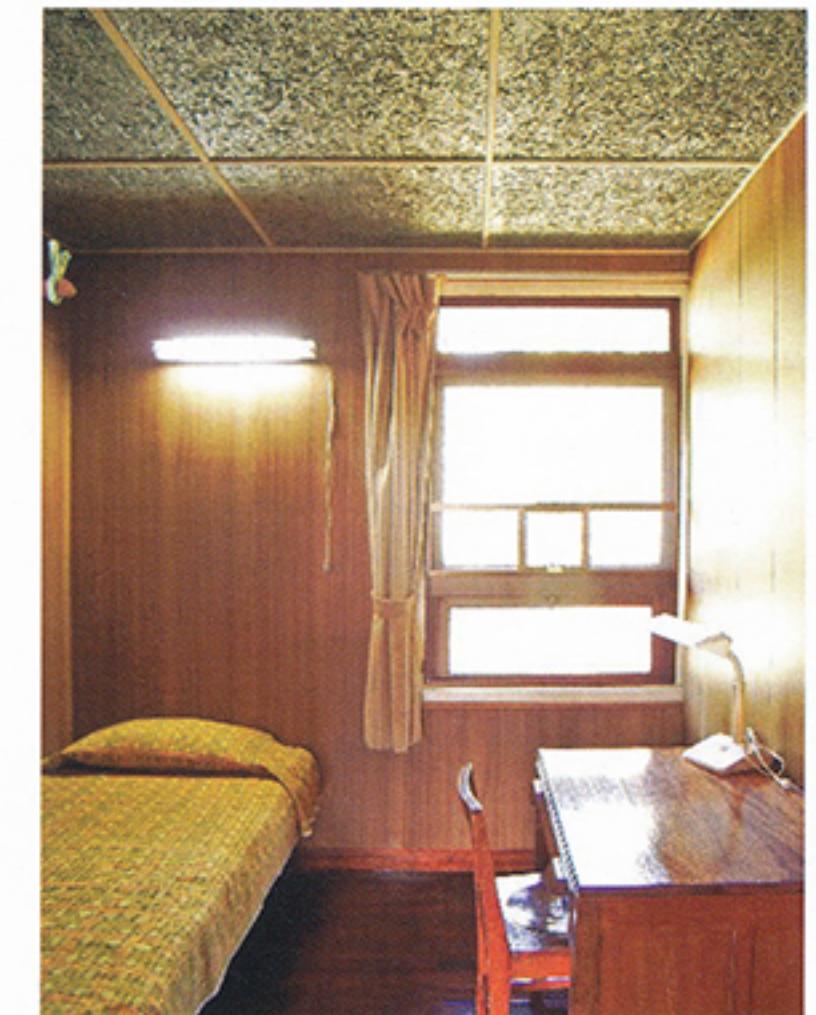
ゲルを建てよう



JOスライド・懇親会



津嘉山酒造見学会



聖クララ教会宿泊体験

第10回 卒業設計 作品選奨



作品募集

- 主 催／社団法人 日本建築家協会(JIA)沖縄支部
□後 援／沖縄タイムス社・琉球新報社・沖縄建設新聞社・タイムス住宅新聞社
NHK沖縄放送局・琉球放送・沖縄テレビ放送・琉球朝日放送(順不同)
□協 賛／ 沖縄電力株式会社・ 沖縄ガス・ 石川文明堂株式会社

委員長 島田潤 [(有)デザインネットワーク 代表取締役]
委員 伊良波朝義 [(有)義空間設計工房 代表取締役]
委員 根路銘安史 [アトリエネロ 代表]
委員 山内暢子 [カラーコンサルタント・カラーセラピスト]

優秀賞

	学校名	氏名	作品名
大学	琉球大学	岩崎優花	個から広がる町のようなもの —栽培する家たち—
大学	九州産業大学	諸喜田圭	沖縄空間—市場と文化伝承の建築—
専修学校	インターナショナルデザインアカデミー	平良亜耶乃	UGANABIRA AN ART MUSEUM
専修学校	インターナショナルデザインアカデミー	内間直樹	PEACE NET
専修学校	インターナショナルデザインアカデミー	金城馨	ARTIVE POINT-F
専修学校	パシフィックテクノカレッジ	伊波梨乃	Life Part SAWAFUI
工業高校	沖縄工業高校	中村貴司	映画館
工業高校	美里工業高校	長濱さおり	保育園
工業高校	北部工業高校	知念彩乃	南国のホテル・彩～SAI～

特別賞

大学	琉球大学	大久保なつみ	スージの寮 —新しいすーじぐあー空間の提案—
専修学校	パシフィックテクノカレッジ	山城香代	らうれあ村(ぶあ保育園・ひわひわ園)

■ 総評

審査委員長 島田潤

卒業設計作品選奨も今年で10回目を迎えました。大学部門3点、短期大学、専門専修学校部門が24点、工業高校部門から7点の応募がありました。

卒業設計というものは、建築を学ぶ学生にとっては、卒業前の大きなイベントであり、学生生活の良き思い出となるものです。また、好きな場所に自分の意思で好きに設計できるチャンスはそうあるものではありません。最初の実作を造れるまでは、それが本人の代表作品となります。

応募作品の中には未熟なもの、短絡思考の危なげなものもありましたが、思い入れが詰まった完成度の高い作品も多々あり、審査は白熱しながらも楽しく観ることが出来ました。若者らしく、荒削りでも独創性や時代性・社会性を感じさせる作品という点に審査の基準を置きました。これから建築の設計を目指す若い人達が、的確に社会性や時代性をくみ取り「少子高齢化」「基地問題」「自然環境」「沖縄の風土、文化」と建築のテーマをリンクさせて正面から取り組んでいることには感心し、また安心しました。

今後の課題として、大学部門において学内の卒業設計の締め切り日の前日に、建築家協会の卒業設計作品選奨の締め切り日が設定されていることで大学生の負担が大きく、また応募のしづらさが考えられます。次回からは提出期日を見直すことを再考した方がよいと思われます。



講評風景



発表風景

選奨作品

大学の部

優秀賞／作品：個から広がる町のようなもの 一栽培する家たちー

岩崎 優花（琉球大学）



地方都市の少子高齢化に伴う歯抜け状態となっていく住宅地の再生計画である。

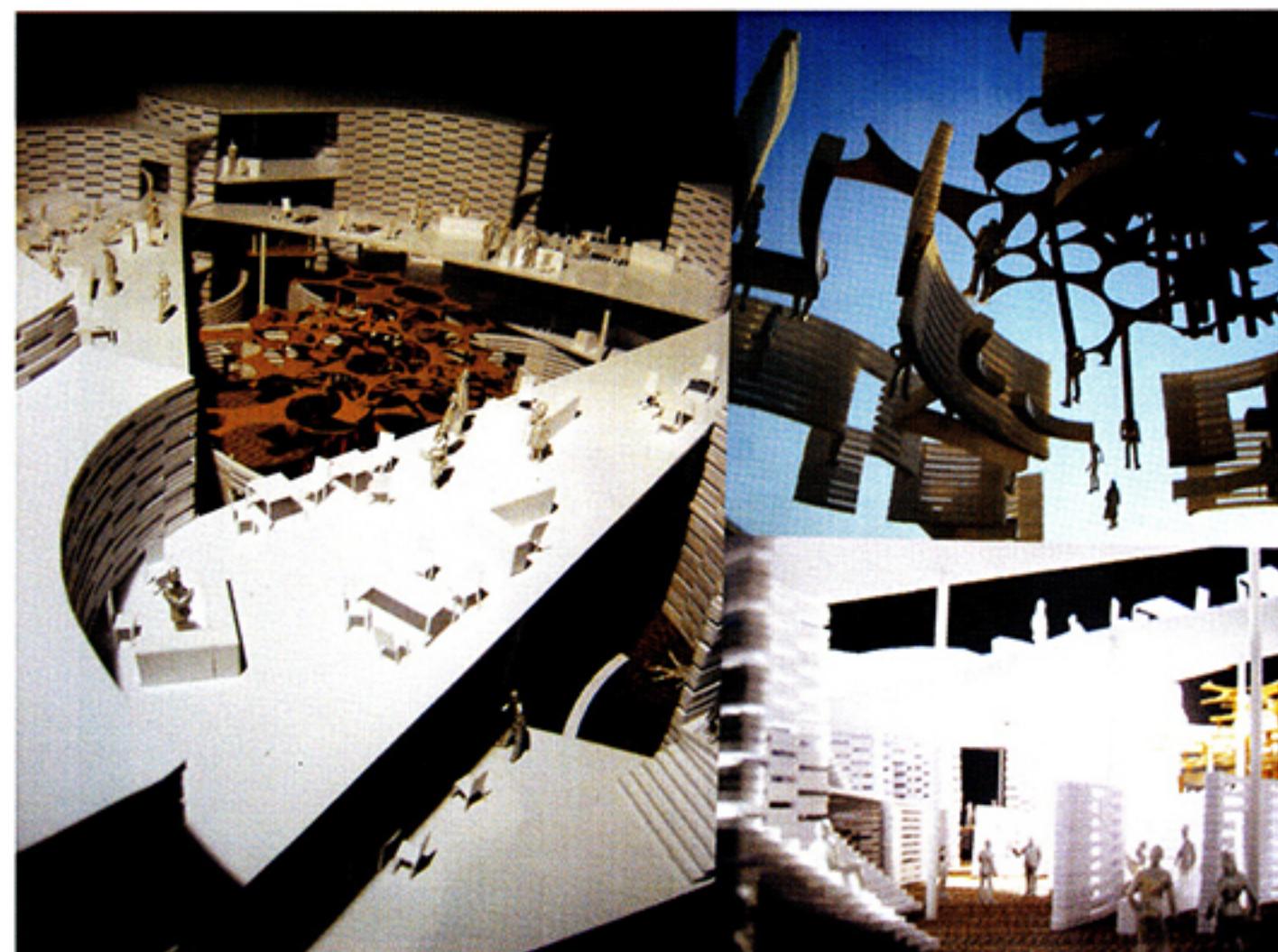
テーマにあるように、少しずつ一軒の家、一つの空き地がいくつかのコードに従った小さな家に建て替えることで、やがて街全体をコミュニティと緑のあるヒューマンな街に変えていくという壮大でありながら、地道な提案である。

街路、空き地、家が、徐々に路地、庭、部屋に変換されていくさまがポエティックに淡い色調で表現されている。女性らしい母性を感じる作品で、肩肘を張ることのない淡々とした街づくりの手法が、まるで童話を読むように語り掛けてくることに感心した。

(講評 島田 潤)

優秀賞／作品：沖縄空間ー市場と文化伝承の建築ー

諸喜田 圭（九州産業大学）



近年の郊外型大規模商業施設の立地により、現在は消えつつある市場や商店街、マチグাーの持つボテンシャルを建築でいかに継承できるか試みた作品である。

これまでの市場は、生産者（販売者）と消費者が直接対話し、人と人とのコミュニケーションによる風景が魅力となって人が集まっていた。

この作品では、これまでの市場の平面的な形を継承するのではなく、幾つものレベルに設定された立体的な市場の構成することで、連続性や賑わい性、非日常性のある風景を構築し、偶発的な人とコミュニケーションを誘発し、市場文化を継続的に受け継ごうとする魅力的な作品だと思います。

(講評 伊良波 朝義)

選奨作品

専修学校の部

優秀賞／作品：UGANABIRAN ART MUSEUM

平良 亜耶乃（インターナショナルデザインアカデミー）



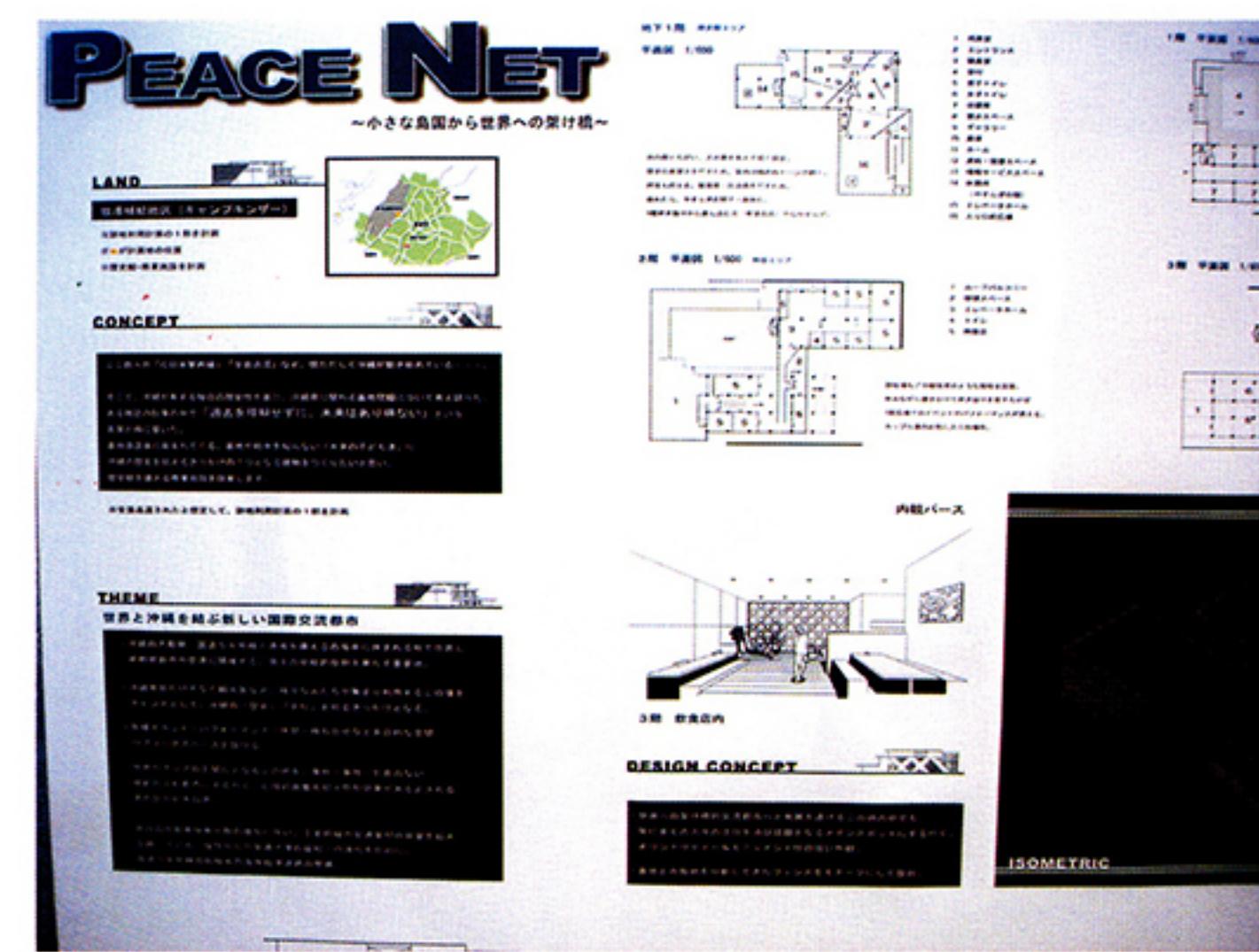
コンセプト作りに力を注いだことがわかる秀作です。スロープに沿って進んでいくと、最後にたどりつくのは「景色という一枚の絵」という見せ場を設定しながら、優しく観客を誘導していくストーリー性が心地よさを喚起しています。

また、全作品中、カラーコンセプトを明確に打ち出している唯一の作品で、無機質になりがちな空間に色彩でインパクトを添えているのが好印象でした。

(講評 山内 幡子)

優秀賞／作品：PEACE NET

内間 直樹（インターナショナルデザインアカデミー）



浦添市の米軍基地キャンプキンザーに、沖縄の歴史を伝える建物と、商業施設を造る。

彼のコンセプトに、『過去を理解せずに未来はありえない。』そんなフレーズがあった。民間と軍の境のネットファインスを平和の網として、世界の架け橋として広げるコンセプトだ。

一般の人は、取り扱いたいネットフェンスを、デザインのモチーフとしても使用している。プラス思考の若いエネルギーに期待する。

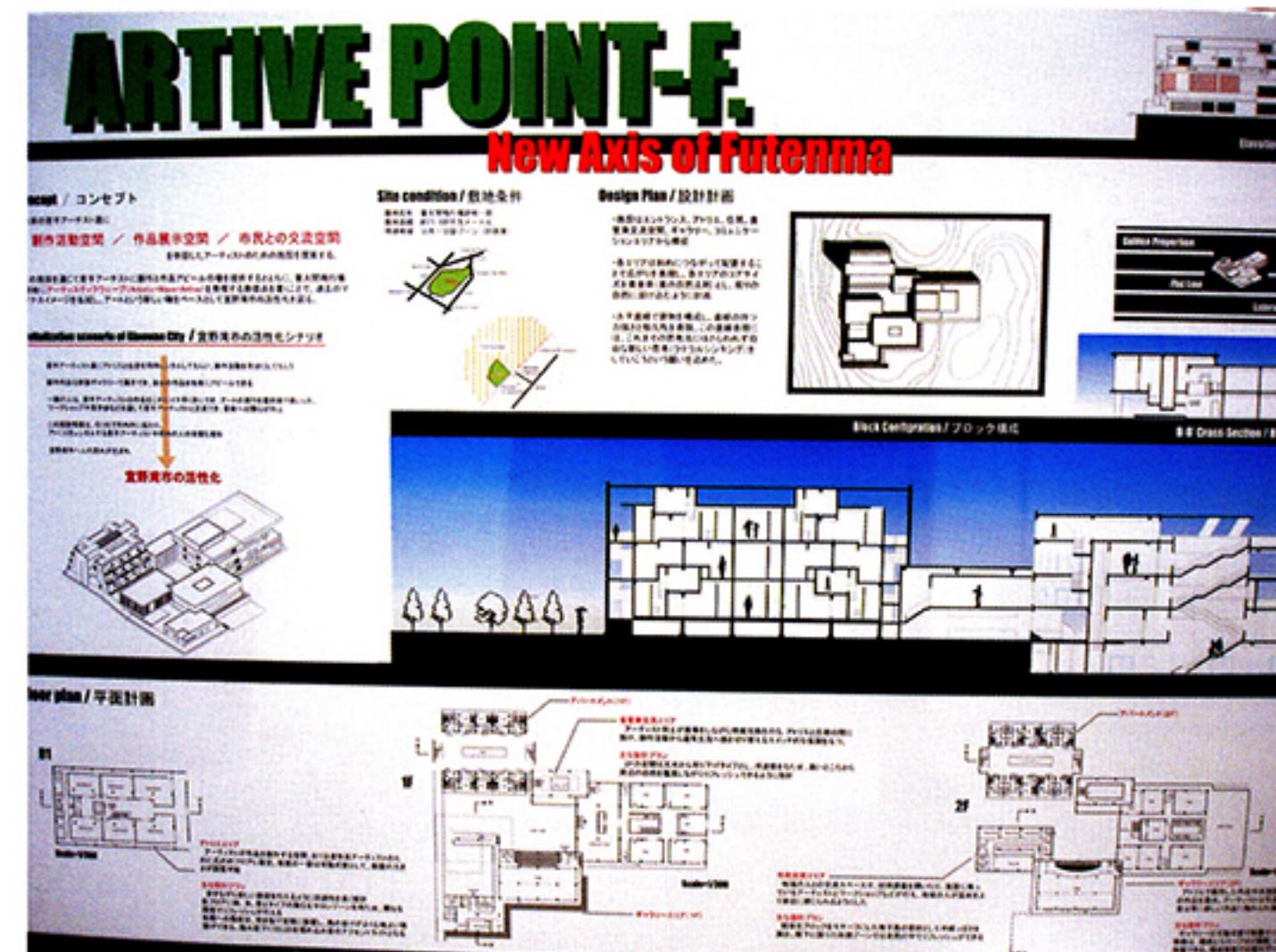
(講評 根路銘 安史)

選奨作品

専修学校の部

優秀賞／作品：ARTIVE POINT-F

金城 馨（インターナショナルデザインアカデミー）



米軍基地返還が報道される最近の社会状況を反映してか、今回の卒業設計作品選奨の応募作品には、基地返還跡地利用を提案した作品が多く見受けられた。

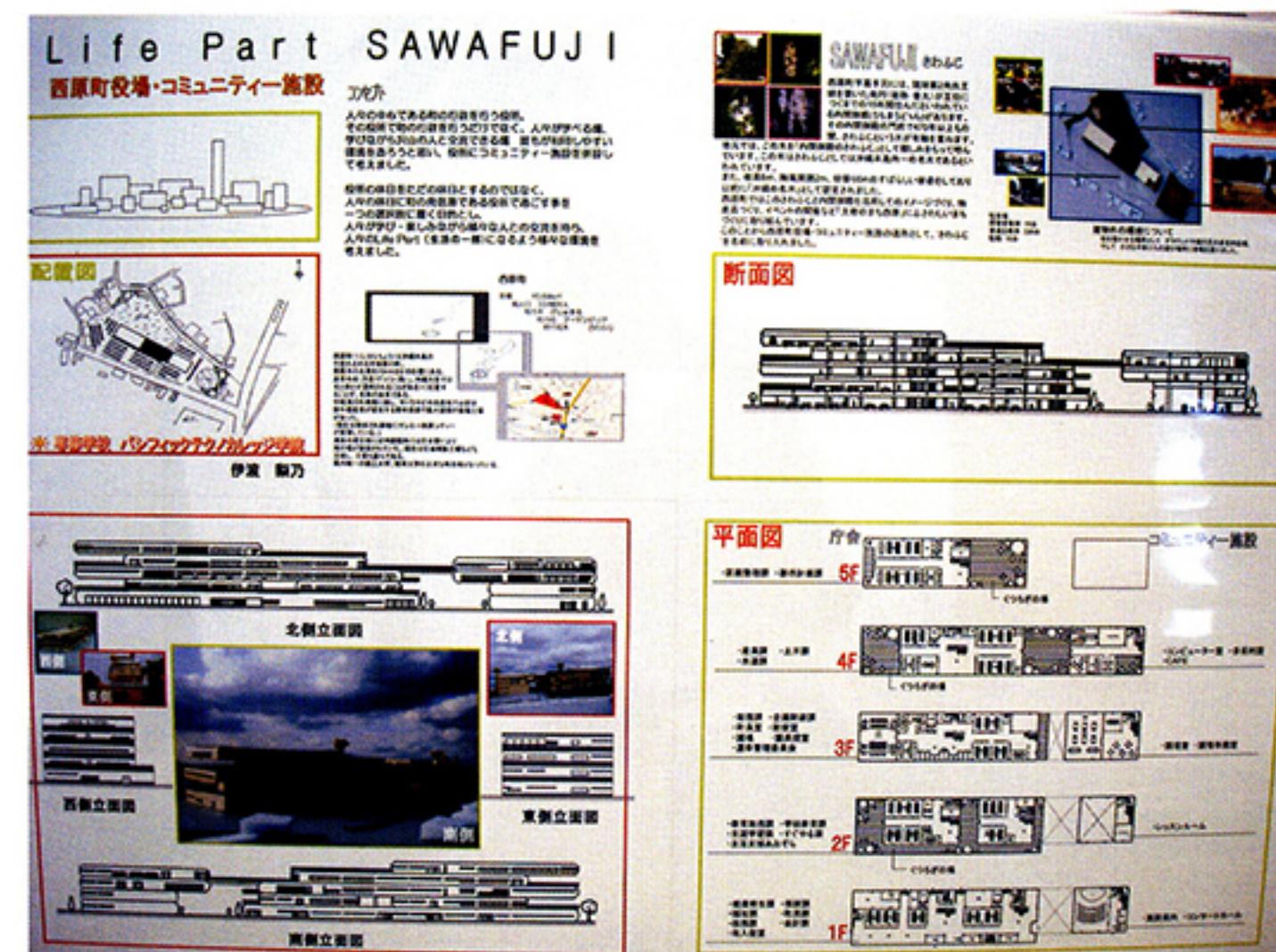
この作品は、普天間飛行場跡地利用について、アートを軸としたまちづくりの提案となっている。まちをつくる際、インフラ等の面整備（ハード）先行型の都市計画ではなく、若手アーティストが住みながら気軽に創作活動を行い、市民との交流が図れる計画となっている。

プランニングやプレゼンの完成度の高さに加え、ソフトを中心とした提案が評価された。但し、ソフト中心の伸びやかな提案に対して、敷地を制約したがために建築をビルディング型にしてしまっているのが残念であった。

（講評 伊良波 朝義）

優秀賞／作品：Life Part SAWAFUI

伊波 梨乃（パシフィックテクノカレッジ）



町役場と生涯学習施設のコンプレックスとして計画されている。休日も使用できる行政施設として町民に開かれたコミュニティの場としてのプランニングが意欲的であり、大きな日陰を創出している軒下空間も、沖縄の風土にあった涼しげな印象があり好ましい。

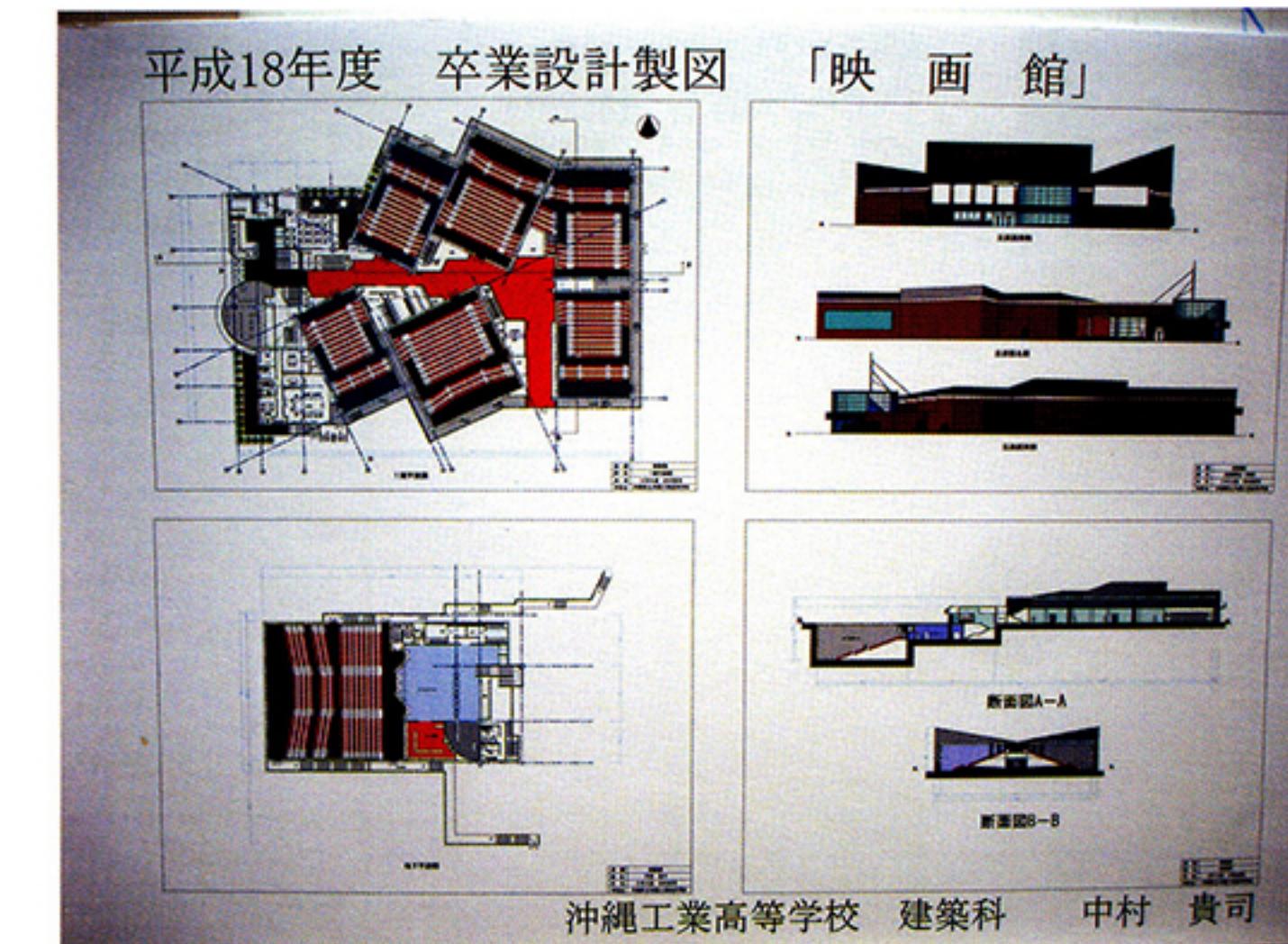
（講評 島田 潤）

選奨作品

工業高校の部

優秀賞／作品：映画館

中村 貴司（沖縄工業高校）



図中に設計主旨が記載されていないため、計画の意図や構成等詳細について不明な点が多くあり、選定するか否か迷った作品である。

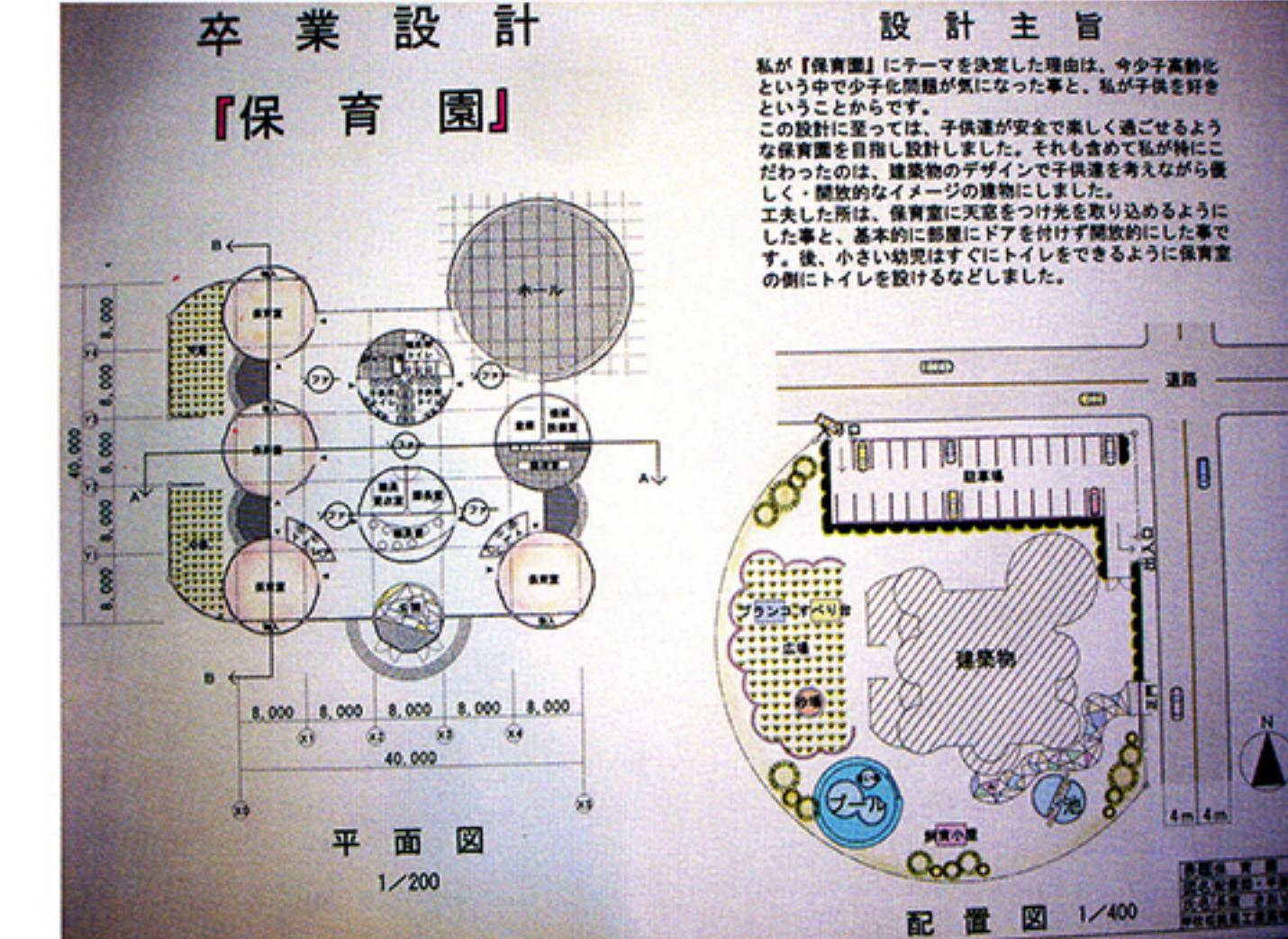
しかしこの作品は、巨大になりがちな映画館を、大小のホールをずらしながら構成することによりヒューマンスケール化し、ホール間に発生した隙間を溜まり空間として動線処理をするなど豊かな空間を提案している。

また、製図力の高さやプレゼンにおいても程よい色彩のバランスで見やすく工夫されていること等、評価の一つとなったことも付け加えておきたい。

（講評 伊良波 朝義）

優秀賞／作品：保育園

長濱 さおり（美里工業高校）



**卒業設計
『保育園』**
設計主旨
私が『保育園』にテーマを決定した理由は、今少子高齢化という中で少子化問題が気になった事と、私が子供を好きということからです。
この設計に至ったのは、子供達が安全で楽しく過ごせるような保育園を目指し、設計しました。それも含めて私が特にこだわったのは、建物のデザインで子供達を考えながら優しく、開放的なイメージの建物にしました。
工夫した所は、保育園に天窓をつけ光を取り込めるようにした事と、基本的に部屋にドアを付けず開放的にした事です。後、小さい幼児はすぐにトイレをできるように保育室の側にトイレを設けるなどしました。

高校生の感性で作られた保育園は、遊び心満載の楽しい作品でした。窓は全て角をとって丸みを強調したり「優しく開放的」をコンセプトに考えられた空間には、園児達の伸び伸びと過ごす様子を想像させるのに充分な可愛らしさがあふれています。

デザイン性だけでなく、実務と管理機能を中心部に集約するなど、スムーズな動線も確保されていて、実用性と快適性も兼ね備えているところに感性の豊かさを感じます。

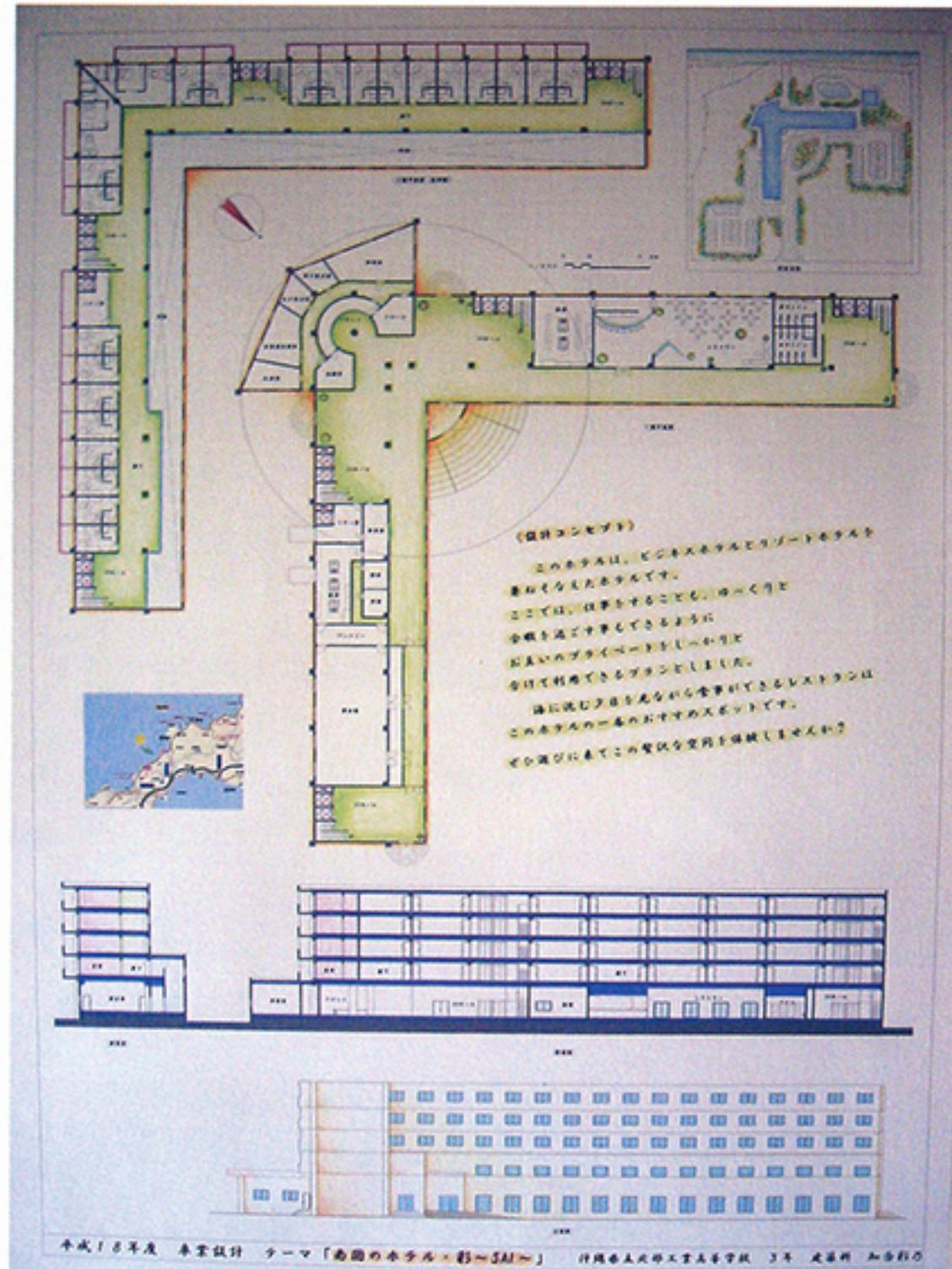
（講評 山内 暢子）

選奨作品

工業高校の部

優秀賞／作品：南国のホテル・彩～SAI～

知念 彩乃（北部工業高校）



審査風景

シンプルで全室オーシャンビューの部屋という構成で、気持ちのよさそうなホテルである。ビジネスに来てリゾート気分に浸れることはさぞ快適であろう。ただ、コーナーの最もビューアの良い場所がスタッフルームになっているのは残念だ。

（講評 島田 潤）



審査風景

特別賞

作品：スージーの寮－新しいスージグラー空間の提案－

大久保 なつみ（琉球大学）



（講評 根路銘 安史）

B2サイズ1枚の作品でした。首里に県立芸大の寮を造る。

人と建物、建物と建物、道路の距離感をもっと、近くした方が良い。

今の町の空間は、スケールアウトしている。車社会での距離感で、ヒューマンスケールでの距離感ではない。

県立芸大の寮で、芸術家の町、寮をつくり、スージグラー空間のように人々を、触発させる。2枚め後の図面を見たいと特別賞になった作品です。

作品：らうれあ村（ぶあ保育園・ひわひわ園）

山城 香代（パシフィックテクノカレッジ）



（講評 山内 幡子）

「自分だったら…」という発想が原点になった、堅実でまとまりのある作品です。階段をベンチ代わりにして絵本の読み聞かせ場所を構成するなど、随所に女性の視点でとらえた現実的でほのぼのとする空間が盛り込まれています。

少し残念なのは、余白が少なくて文字が読みにくかったので、誘目性を高めるレイアウトになるように工夫すると、作品意図がプレゼンでしっかり伝わるようになると思います。